

後援団体からの受賞作品

美育文化協会 会長賞

「花火」

愛知県名古屋市長立植田南小学校

四年 村田 英子

花火の美しさを、画面いっぱいにとにかく描き出した力強い作品です。村田さんの心に残った、星やお花の色とりどりの花火が、素直に表現されています。

花火を見物する人々の動きや表情にも心を配り、楽しい夏の夜の雰囲気伝わってきます。



日本子どもの本学会 会長賞

「夢を運びつづけた船」

—「天平の薨」を読んで—

大阪府大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校

一年 高谷 知佳

戒融は、普照たちと同輩の留学僧である。私は、この人に強くひかれた。戒融の旅はとても厳しかっただろう。普照には、渡日の意志を変えない鑑真と仲間がいた。国のためという大きな目的も、責任感・使命感を湧かせたりして、励みになるに違いない。しかし戒融には、励まし合う仲間もない。挫けてやめてしまうことも簡単だ。そのような状況の中でいったい何人の人が、夢を持ち続けることができるだろうか。戒融は、その「何人」に含まれる人だった。「俺は天竺へ行く」、十年ほど経って、普照と再会したとき、彼はまた新しい夢を追っていた。彼の姿勢は少しも変わっていない。彼はいつも前向きだ。終わりはない。夢を渡り続けているからだ。タイムマシンがあるのなら、私はぜひ戒融に会いたい。前向きな、自信のもてる姿勢で歩んでいきたい。今持つてる夢を、ずっと持ち続けたい。戒融のように。

(抜粋)

本の内容をしっかりと読み取ったうえで、自分のふだんの生活にひきよせて、考えを深めています。登場人物ひとりひとりのとった行動や考え方をふまえながら、自分が共感した一人の人物「戒融」に的を射したことで「夢を追いつけること」という文章のテーマがより明確になっています。各段落のまとめ方や全体の構成も、よくバランスがとれています。

日本児童文芸家協会 会長賞

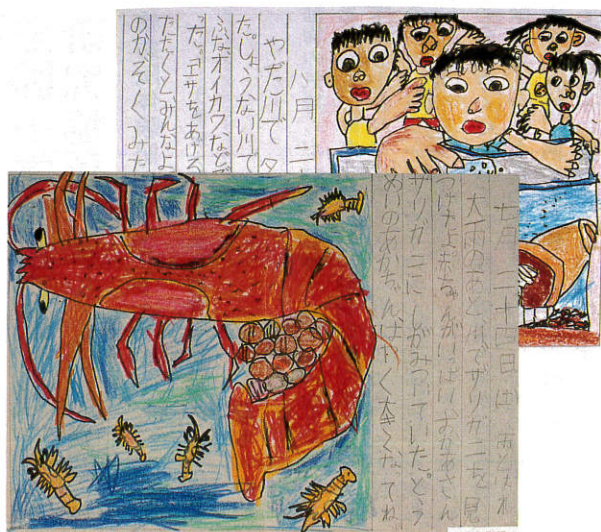
「いきものにつき」

愛知県名古屋市長立守山小学校

一年 荒川 創太

「いきもの」をテーマとしたユニークな絵日記です。見開きいっぱい、ダイナミックにえがかれたザリガニくんやクワガタくんたちがところせましと、絵日記からとび出してくるようです。

クレヨンを使った色づかいも見事で「いきもの」たちが実に生き生きと表現されています。彼らに対する深い愛情が絵日記全体から感じとれる作品になっています。

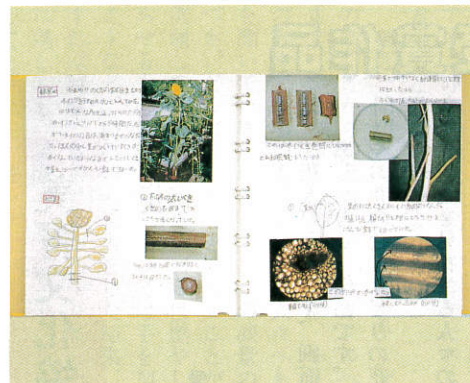


全国小学校理科研究 協議会 会長賞

「ぼくらのヒマワリ図鑑」

神奈川県平塚市立みずほ小学校
五年 市川 達也

夏の花の代表ともいえるヒマワリについて、発芽から生長、開花、結実までをていねいな実験・観察によってまとめています。どの実験・観察も今まで授業で習った内容をもとに自分なりの工夫を取り入れたり、根の生長の観察に関連して、根毛を顕微鏡で観察するといった具合に組み合わせたりして、自分なりのものになっています。また、生長の時々において、他の植物との比較を行っており、植物の生長についての総復習としても役だっています。さらに、ヒマワリの分布、種類などの知識的なことがらや、ヒマワリにみる虫などヒマワリを取りまく様々なことがらをまとめ、文字とおり「ぼくらのヒマワリ図鑑」となっています。



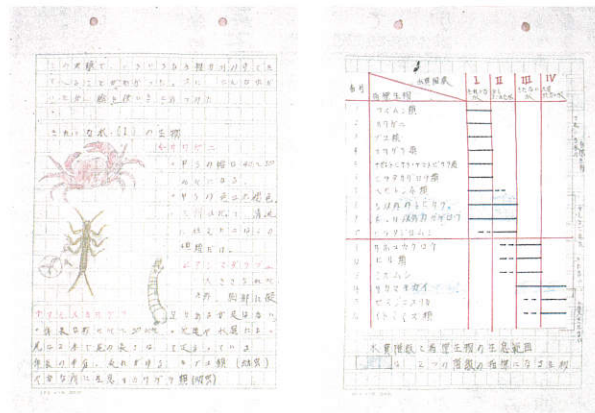
▲ 1つ1つの実験・観察が、とてもていねいできちんとしており、学校での理科の学習経験が十分生かされています。理科の勉強の中にも、これだけいろいろなテーマが詰まっているという見本のような作品です。この研究のように、テーマにとらわれず、本当の自分の興味や疑問を見つけてください。

全国中学校理科教育 研究会 会長賞

「水生生物による水質の調査」

静岡県静岡市立服織中学校
三年 和田 由美香

静岡県内の3つの河川（安部川、狩野川、那賀川）を調査地点に選び、水温・気温・川幅・水深・流れの速さや川底の様子などを調べて、水生生物と河川の水質の関連を調査しています。水生生物は主に、指標生物といわれる水質に関係のある生物を採集し、その種類や数などから、学術的に水質を調べています。そして、きれいだといわれている安部川の水が、実際にはかなり汚れていることを検証しています。



▲ 中学生らしく、丹念に調査を計画し、よく実行しています。水生生物やその環境のことなどもきちんと文献で調べており、大変な労作といえます。そういった実証的な行動力がたいへん高く評価されました。ただ、参考文献はその書名をしっかりと示しておいてほしいと思います。

全国小学校生活科教育 研究協議会 会長賞

「動物病院体験記 PART3」

大阪府大阪教育大学教育学部附属天王寺小学校
三年 綱木 麻帆

「動物の気持ちかわかるじゅういさんになりたい」という思いから、昨年までは町の動物病院で獣医さんの仕事を体験しました。そのときに「町のじゅういさんはペットの動物、いなかのじゅういさんは生活に役立つ家畜をしんさつすることが多い」ことに気づき、今年はいなかの獣医さんに会って、一緒に現場へ出かけて取材し、町の獣医さんといなかの獣医さんの違いを見つけ出しています。それは、例えば急病のときに、町の獣医さんと違って、いなかの獣医さんは無線機やポケットベルで呼ばれて、患者のところへ出かけていくことなどです。この取材・体験を通して、「動物となかよくくらせる地球を作らなければならない」と考えるようになりました。



▲ 作品名からわかるように、3年にわたる体験の積み重ねがみられる力作で、写真とイラストを上手に組み合わせられてまとまっています。動物に関する新聞記事の収集にしても、夏休みだけでなく、日ごろから興味を持ち続けていなければならないことだと思います。

日本社会科教育学会 会長賞

「祖母の生きた94年―茅ヶ崎に生きた祖母の回想録」

神奈川県茅ヶ崎市立円蔵中学校
三年 守屋 美代子

守屋さんには明治三十二年生まれのおばあさんがいて、「茅ヶ崎市ができる前の明治中期から戦中までの茅ヶ崎の生活、学校、地域の様子などの変化をおばあさんの話を中心に調べ」ようと思いました。

研究方法は主におばあさんの話の聞きとりですが、その裏付け資料を集めたり、昔の身の回りの品を探し出したりして、それらの写真をイラストとあわせてまとめています。昔と今の生活の比較から、現在は昔の自給自足に近い生活に比べむだが多いこと、また戦争もあり苦労も多かったのになぜか昔の方が生き生きして見えるという感想を述べています。そして、おばあさんの知恵を自分で受け継いでいこうという結論に達しています。



▲ 一人のおばあさんの生活文化の研究が近・現代史まで語っている秀作です。おばあさんは94年間で関東大震災や太平洋戦争など大変な苦労をされているのですが、それにもかかわらず作品が明るいの、おばあちゃんがたくましく生き抜いてこれたせいでしょうか。イラストも効果的で、守屋さんの遊びの精神が生きた、民俗学としても十分通用する作品です。

中央出版(株) 特別賞

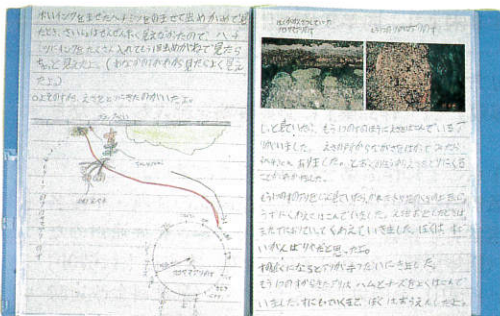
「ぼくらの家のアリさん(II) 今年もまたあえたね」

岐阜県瑞浪市立瑞浪小学校
二年 松本 祥

まず、アリの巣はどこにあるかを、自分の家、岡山と鳥取のおばあさんの家の三か所で観察しています。観察の結果はイラストで示され、アリを発見した場所から巣までの距離と所要時間をはかりもしています。

アリはどんな食べものが好きかを調べるときに、砂糖が一番好きという予想をたてたけれど、他にもえさがあるときにはあまり集まらないことがわかりました。

また、アリの名前を調べるのに、アリがうるちよろしなようにハチミツを与えたり、去年は湿った土ではなかなか巣をつくらなかつたので、川からサラサラの土を取ってくるなどの工夫もされています。



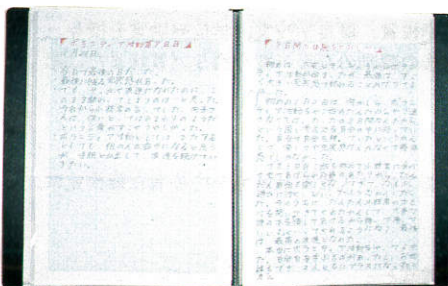
▲ 2年続けてアリの生態を追った労作で、昨年の経験がよくいかされています。アリをテーマにした作品の中でも、この作品は観察しようと思うことがはっきりしており、観察の仕方、わかったことなどが文章とイラストでしっかりまとめてあった点が優れていました。

中央出版(株) 特別賞

「ボランティア活動をととして」

岐阜県岐阜市立長良中学校
二年 伊藤 尚子

夏休みの長い時間をだれかのために使おう」とボランティア活動の思い立ち、伊藤さんは長良病院に直接申し込みます。そのときの八日間の体験と考察が主な内容です。伊藤さんは「小椋君」という三十八才の人の担当となり、彼とのかかわりの中で色々なことを学んできました。初めはうまくいかなかったのですが、初めてご飯を食べさせたあげたときに小椋君に「自信を持ってよ」と励まされたこともきっかけとなり、どんどん積極的に行動できるようになります。そして最後には障害を持つて人の心の強さに気づき、「どんなに弱い立場にあっても：人として対等にかかわりあっている社会が本来あるべき」姿だと考えるようになりました。また、福祉の現状を調べ、保母さんから聞きとりも行っています。



▲ 福祉という非常に現代的な主題に正面から取り組んでいます。文章が中心で表現がやや淡白で、研究としては、政策なども扱って欲しかったとの声もありましたが、価値ある体験内容と、難しいテーマをあえて選んだ姿勢が評価されました。伊藤さんの体験はまさに生きた社会科で、やるべきだと感じたことを直線的に実行している、勇気ある作品です。